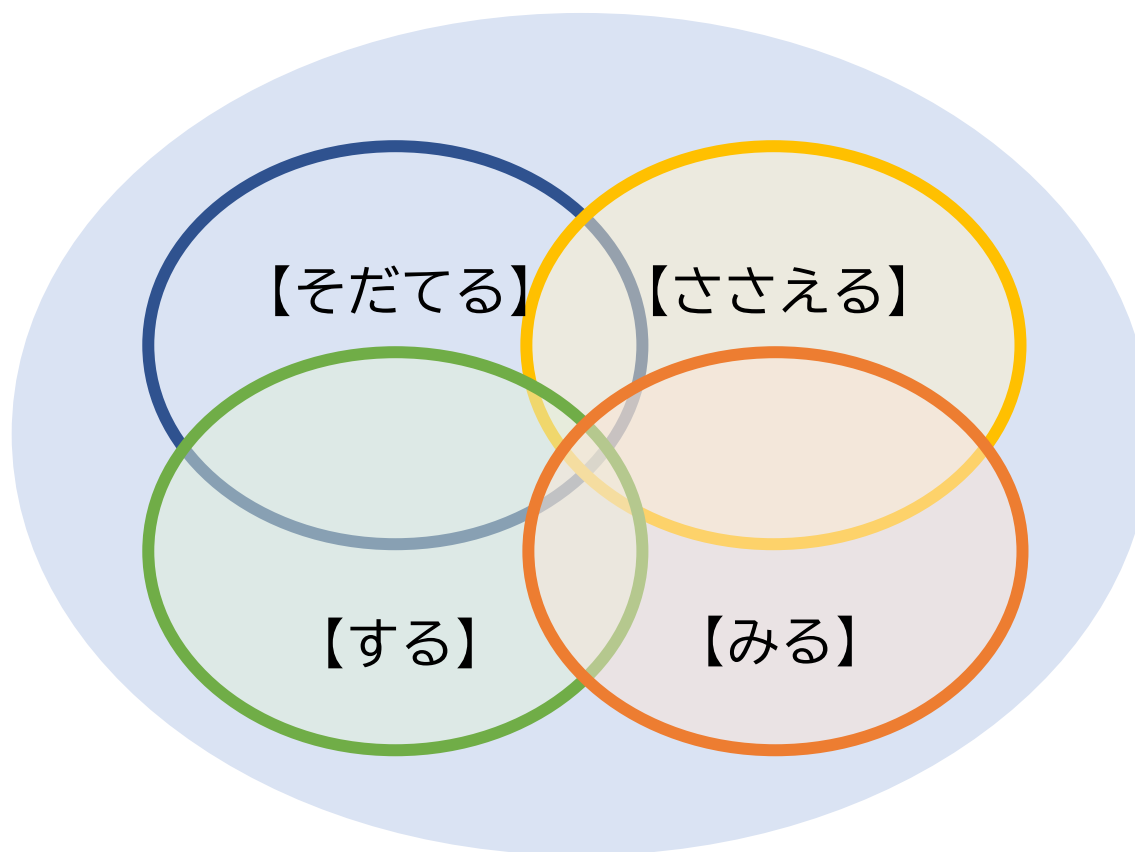


基本理念	基本目標	基本施策	取組（案）
スポーツタウン府中の発展	1. 市民が主体的に参画する地域スポーツ活動の普及・促進 【そでてる】	（１）人材・組織の育成・活用 （２）ニーズを捉えたスポーツ推進体制の強化	①多様なスポーツ大会等の実施 ②ジュニア育成支援 ③スポーツ大会等の開催支援 ④自主的活動の支援
	2. 多様な主体を対象としたスポーツ活動機会の充実 【ささえる】	（１）ライフステージに応じたスポーツ活動の促進 （２）障害者（児）スポーツ活動の普及 （３）市内事業者等との連携強化【新】	①生きがいづくりにつながる支援 ②障害者（児）スポーツの支援 ③障害者スポーツへの理解促進
	3. スポーツの場の整備・充実 【する】	（１）スポーツ施設・設備の再整備 （２）身近にあるスポーツ活動の場の整備 （３）民間活力の導入 （４）施設使用料の見直し （５）学校等との連携強化【新】	①スポーツ施設の管理・改修等 ②大学等の連携検討 ③民間スポーツ施設との連携検討 ④施設使用料の適正化 ⑤学校施設の地域開放検討
	4. 未来につながるスポーツ文化の形成 【みる】	（１）スポーツを通じた交流の促進【新】 （２）スポーツを活用したシティプロモーションの推進【新】 （３）市内トップチーム等との連携強化【新】 （４）スポーツ情報の発信強化・関心喚起【新】	①関係団体との連携 ②スポーツを通じた府中市の魅力発信 ③市内トップチーム等との連携 ④ニーズを捉えたスポーツ情報の発信

4つの基本目標はそれぞれ相互に関連しながら市民のスポーツを推進し、基本理念である「スポーツタウン府中の発展」につなげていくものとします。

スポーツタウン府中の発展



基本目標の整理のプロセス

■市のこれまでの取組（第6次府中市総合計画）

- ・「スポーツの生活化」や「全ての市民が積極的にスポーツ活動に取り組める拠点としての施設整備」といった取組を推進してきた。

【アンケート調査結果より】

■ご自身について

- 心身共に健康だと思っている人は 86.6%
- 新型コロナ感染拡大によりスポーツに対する意識や行動に変化した人は 40.4%

■「する」スポーツについて

- 成人の週1回以上のスポーツ実施率は令和2年3月31日までの 59.8%、4月1日以降で 60.8%（令和元年9月時点は 57.2%）
- スポーツや運動をした理由は、「運動不足解消のため」が最も多く 69.2%、次いで「健康、体力づくり」が 65.6%、「楽しみや、気晴らしとして」が 45.7%
- 令和2年4月1日以降、スポーツを行った際に、インターネット上の動画（YouTube など）を参考にした人は 29.4%
- スポーツや運動をすることを妨げものとして「時間的な事情」が最も多く 52.2%
- 「現在、スポーツを行っていない。また、これから先も、するつもりはない。」人は 24.7%

■「みる」スポーツについて

- 令和2年3月31日までの1年間で週に1回以上スポーツ観戦をした人は 27.8%
- 今後、スポーツを観戦するために必要なことは「無料招待日や地域住民割引等の特典の充実」が最も多く 61.8%

■「ささえる」スポーツについて

- スポーツに関する指導や協力、スポーツ大会の運営などスポーツに関するボランティア活動を行ったことがない人が 93.4%

■スポーツに関する情報について

- 「スポーツタウン府中」を知らない市民は 79.7%
- 知りたい市のスポーツ情報は「健康や体力づくりに関する情報」が最も多く 37.1%

■障害者のスポーツ振興について

- 障害者スポーツに「関わったことはない」人が 91.1%

■市に今後力をいれてほしい施策

- 府中市は今後力を入れるべきだと思うことは、「身近なスポーツ参加の機会を増やす」が最も多く 29.4%、次いで「子どもたちの体力向上」が 21.4%

■子ども（小学生、中学生）の意識

- 外で遊ぶことが好きな割合と、運動やスポーツをすることが好きな割合は年代が上がるにつれて低下している

【ヒアリング調査結果より】

- 楽しむものだという考えをもつ子どもや保護者も増えてきている。
- 市内のスポーツ関係団体をフラットにつなぐプラットフォームがあるとよい。継続的に情報交換、意識共有する座組ができるとよい。
- スポーツの力を活用して、インクルーシブなまちづくり・地域づくりについて考えていけるとよい。
- 事業について、アウトカムの視点で評価されるしくみがあるとよい。
- 市が旗振りし、行政としてできること、民間に任せたいことを整理してほしい。
- 市内トップチームには、年齢や障害の有無に関わらずスポーツに親しむ人が増えるよう、市と連携していく意向もある。
- スポーツの力を活用した地域経済活性化につながる取組を考えていけるとよい。

【課題と対応の方向性】

スポーツを通して、より一層心身ともに充実した生活を送る市民を増やしていけるとよい



- ・スポーツ実施率の維持・向上の取組とともに、市民の関心喚起・行動変容も重要な視点
- ・する、みる、ささえる市民を増やすとともに次世代に引き継ぐ「そだてる」視点も重要

長期的な視点で効果的・効率的なスポーツ施設整備・配置を考えていけるとよい



- ・施設の老朽化対策、長寿命化対策は必須であり、そこでは民間活力の導入もポイントとなる
- ・庁内関係各課の連携も重要

年齢・性別・障害の有無に関わらず、市民のだれもがスポーツを身近に感じることができるよう、環境を充実していけるとよい



- ・ソフト・ハード両面からスポーツの環境を充実していくことが重要
- ・サービスの面でも民間活力の導入は重要な視点となる
- ・**求める人に適切に情報を届ける工夫が重要**

多様な主体が効果的に連携していくために、ビジョンの共有、役割の整理が必要



- ・次期計画において、多様な主体が共有できる理念を構築することが重要
- ・庁内外で連携・協働を推進していくためのコーディネートも重要

スポーツの力を活用して地域内の協働を促進し、未来につながる文化を形成していけるとよい



- ・市とトップチームがビジョンを共有して協働し、市民のだれもがスポーツを身近に感じられる場や機会を充実していくことが重要
- ・スポーツの力をまちづくり・地域づくりに生かしていけるとよい
- ・**新たなスポーツのあり方を検討するとともに、生活の実態に即したスポーツ施策を推進していくことが重要**

【基本目標】

1. 市民が主体的に参画する地域スポーツ活動の普及・促進

【そだてる】

2. 多様な主体を対象としたスポーツ活動機会の充実

【ささえる】

3. スポーツの場の整備・充実

【する】

4. 未来につながるスポーツ文化の形成

【みる】